

支 援

第二回小学校・中学校のVCミーティングを開催

9月5日(金)・9月9日(火)の両日、市役所2階市民協働おうえんルームで4組のミーティングを開催しました。なにぶん小学校の地区合同ミーティングは初めての試みでしたが、いかがでしたでしょうか。

小学校の地区によって取り組んでいる傾向に特色があること、たとえば夏季休業中に行われているサマースクールを展開中の地区の情報は、これからスタートする地区のVCにとっては参考になったことと思われます。「早速、学校に帰ったら〇〇地区のサマースクールについて、校長先生に報告します」との声も聞かれました。また、中学校のミーティングでは、補習学習を行う学校が増えていることや、補習学習の指導補助として、教員志望の大学生を中心に体制を組んでいる学校がある一方、地域の方を中心に行っている学校も多くありました。どちらも学校の方針に沿った体制作りとお聞きしています。「いまでも『ボランティアコーディネーターって何をするの?』って言われることがあるんですよ。学校の中でのVCの認知度がまだ低いんです。」という報告もありました。他地区から転入された先生からすると、町田市学校支援センター事業(学校支援地域本部事業・町田版)には馴染みがないかもしれません。今後とも、粘り強く説明していく必要があります。

3学期の小学校地区別ミーティングは、1地区(小山田小)2地区(忠生小)3地区(鶴川第三小)4地区(町田第一小)5地区(成瀬台小)6地区(つくし野小)というように再び学校を会場に、中学校VCミーティングは市役所を会場にして行う予定です。

1・3地区合同ミーティング



2・4地区合同ミーティング



5・6地区合同ミーティング



中学校合同ミーティング



10日(水)の2校時、3年の学級で「日本の伝統芸能詩吟教室～大きな声を腹から出して音読名人になろう～」の授業がありました。講師は、成瀬在住の詩吟師範 高橋先生です。3年生の児童には難解なところもありましたが、先生は噛み砕いて易しく説明されていました。喉ではなく腹式呼吸をすること、姿勢をよくすること、「ミファラシドの五音階」と音符のような「節長」など、詩吟の基礎をおさえたあと、実技に移ります。前半は「太田道灌蓑を借るの図に題す」でした。「孤鞍雨を衝いて茅茨を叩く 少女為に遣る花一枝 少女言わず花語らず



英雄心緒乱れて糸の如し」 太田道灌が勉強に励むようになったきっかけが、少女から渡された蓑(みの=実の)であったことを詠んだ漢詩だそうです。後半は児童の俳句をみんなで詠み、日本の伝統芸能・詩吟の奥深さにふれる授業となりました。幼少年期に学んだことはすぐにはわからなくてもそのことが布石になることがあります。また、詩吟を通して国際交流が深まることも多いそうです。次に、11日(木)5・6校時、同校スクールボードの菊池様が「藍の生葉染め」を4年生に教えました。学校園で育てた藍を花の咲く前に採取して、生葉だけを集めます。葉を1センチくらいに千切り、砕き、揉み、酢や水を加えながら布袋で絞って藍汁をとり出します。そこで、用意された絹布を15分位藍汁につけこみ、さらに水洗いします。藍の生葉による染め物の完成です。廊下にはターコイズブルーの絞り染めが吊るされていました。その後、「トントン染め」にもトライして、二つの作品が仕上がりました。後で、藍の栽培段階からボランティアによる支援が継続的に行われたことを校長先生が語ってくれました。藍の栽培は本授業が成立する要件のひとつですから、心から感謝です。



砕き、揉み、酢や水を加えながら布袋で絞って藍汁をとり出します。そこで、用意された絹布を15分位藍汁につけこみ、さらに水洗いします。藍の生葉による染め物の完成です。廊下にはターコイズブルーの絞り染めが吊るされていました。その後、「トントン染め」にもトライして、二つの作品が仕上がりました。後で、藍の栽培段階からボランティアによる支援が継続的に行われたことを校長先生が語ってくれました。藍の栽培は本授業が成立する要件のひとつですから、心から感謝です。

「多摩シルク」を訪ねて(繭で織物を作る)

9/4

小学校では、総合学習や生活科、あるいは理科などで蚕を扱う学校があるかと思います。蚕を育てて繭ができた後、繭をどのように活用していらっしゃいますか。小山中央小学校のVCから、繭に関する伝統技術を習得するために「多摩シルク(多摩シルクライフ21研究会)」を訪ねるという情報を得ましたので同行してきました。

繭の活用について、まず教えていただいたのは、繭から糸をとること。次に撚った絹糸と染めた絹糸を縦糸・横糸に使う織物にしていきました。低学年には少し難しいかもしれませんが、指導補助の方がそばについて補助すれば中学年以上なら活動可能だと思いました。日本の伝統である絹文化や



かつて町田でも盛んに行われた養蚕を体験的に学ぶことは意義深いことです。残しておきたい伝統を継承するために、VCをはじめ保護者・地域のボランティアの方々が専門家から直接学び、学んだことを自校に帰って教師や児童に教えることができるかもしれない・・・「多摩シルク」訪問は、参加者一人一人の高いところざしが感じられる研修となりました。「多摩シルク」では、出前授業はしませんが、研究所内(最寄駅:京王堀之内)で技術を伝える活動であれば受付けることもあるそうです。関心のある方は学校支援センターに連絡してください。

【サマースクールや補習学習等】

忠生第三小

【中国古文字を使って書いてみよう】
うちわに中国古文字・金文で「夢」という字を書きました。半紙で練習した後、真っ白なうちわに清書。



南第一小【竹馬】

地域の方や先生が竹馬の乗り方を教える講座。竹馬に乗れた成功体験は子供たちの自信につながったことでしょう。



忠生小

【布ぞうり作り】

児童机に取り付けた道具を使い、初めてのぞうり作り。児童数分用意された道具は机のサイズに合わせてVCが作りました。



町田第一小

【ふれあい体験教室】

カブトムシハウスで虫たちと触れ合いました。



小山田小

【鶴見川源流講座】

学校近くの調整池で、水棲生物を調査しました。メダカやザリガニなど6種類を見つけることができました。



山崎小【おもしろ理科教室】

桜美林大の先生方から指導を受けて、いろいろな種類の水溶液のpHを調べ、発表しました。



七国山小【保育体験】

今や同校サマースクールにはなくてはならない職場体験コース。男子も参加していました。



南中
【夏期補習】
 夏休みに行われた補習授業の支援の一コマ。

サマースクール in 日大三

今年で二年目、日本大学第三中学校・高等学校を会場に、2日間で23の講座が開設されました。忠生・小山田地区の小学校7校の児童(希望者)が参加しました。



山崎中【部活指導・陸上部】 三木さん(八王子市在住)は山崎中で陸上部の指導にかかわるようになってはや4年目。暑い中、生徒の健康管理に注意を払いながら指導されています。参観当日は陸上部OBも練習に参加していました。

伝言板

【学校支援センターのフロアー内移動】

10月上旬に学校支援センターが庁内で移動します。フロアーはこれまでどおり10階ですが、デスクの位置が変わります。これまでよりもカウンター側に近い所になります。皆さんがご来所された際にはこれまでよりも迅速にご対応できるかと思っておりますのでよろしくお願いいたします。電話・FAX番号やメールアドレス等はこれまで通りです。

【糸車の貸し出し】

学校支援センターに田村統括コーディネーター所有の糸車が置いてあります。「学校で使用する予定があればいつでもどうぞ」という伝言をことづかっていますので、御入用の際は、直接、学校支援センターにお越しください。

【藍の種】

藍の種をさがしている学校は、お知らせください。藍の種の情報をご提供します。

【「支援」のカラー印刷に向けて】

当センターの広報紙「支援」は白黒印刷で発行しています。できれば、庁内のカラー印刷を担当する部署の協力を得ながら、画像がもっと鮮やかなカラー版「支援」を模索中です。コストや情報のニュース性のことをよく検討したうえで実現させていきたいと思っております。

堺中【夏期補習】

今年度も夏期補習が行われました。質問があれば支援者が対応しますが、基本は自学自習です。

